



世界福音同盟総会の開会宣言（2019 年 11 月 7～12 日、インドネシアで開催）

異端の企てに用心を

「偽預言者たちに用心しなさい。彼らは羊の衣を着てあなたがたのところに來るが、内側は貪欲な狼です。」（マタイの福音書 7：15）

2008 年に私は国際渉外室に加えられました。その時より今日まで、海外からの來客の応接やアジア福音同盟（AEA）の働き、世界福音同盟（WEA）の総会などに参加してきました。

この 10 年余りの期間を一言で表現するならば、AEA に関しては「体制整備の時」、WEA に関しては「体制浄化の時」だったと言えるでしょう。

アジア福音同盟では、バンコクにおいて法人登録をし、銀行口座を開設しました。また、条例と細則を改定して、その条例に則って活動を進めるようになりました。今まで会費納入のなかったメンバーたちが、会費を納めて活動に加わるようになったのも特筆に値します。今年予定されている AEA 総会において、まもなく条例に則った方法で選出された実行委員と議長が決まることでしょう。

世界福音同盟については、「体制浄化の時」と表現しました。浄化の内容は、この間に開催された二回の WEA 総会の違いに顕著に表れています。タイのパタヤで開催された 2008 年総会では、アジア系の青年たちが異様に感じられるほど活動していました。彼らは実はクリスチャントゥデイ（米国ではクリスチャンポスト）などダビデ張氏の組織のメンバーでした。ワールドオリベットアッセンブリーを率いるダビデ張氏と WEA 前総主事のタニクリフ氏が密接な繋がりをもってしまい、WEA の実態を変えてしまったのです。張氏からの資金、人材や場所の提供を受けたタニクリフ氏は、WEA に IT 委員会を発足させ、他にもさまざまな張氏の要求を受け入れました。そして IT 委員会には、張

氏と深い関係にあるオリベット大学の卒業生が多く送りこまれる結果となりました。

ある出来事を紹介しましょう。東日本大震災が起きた直後に、私は祈りを要請するため AEA に報告を送りました。驚いたことに、その報告が掲載された場所は、WEA の IT 委員会が運営するニュース欄でした。クリスチャントゥデイのネットワークを介して、実に密に繋がっていて驚きを禁じえませんでした。私は JEA の立場から、AEA を通じて WEA が張氏と繋がりをもつ



植木英次
JEA 国際渉外室長
イムヌエル綜合伝道団

ことの危険性を発信してきました。張氏関連企業やオリベット大学がマンハッタン地方検事に訴えられてから、ようやく WEA 指導者たちは、張氏との繋がり危険を感じて、きっぱりと繋がり断ちました。WEA 国際理事会において、私は張氏に関して日本で起きていることを証言し、国際理事たちに理解を深めてもらいました。

このように WEA 内の浄化が進んだ結果、ジャカルタで開催された 2019 年 WEA 総会では、張氏関係者の出席はありましたが、影をひそめた存在となりました。

最後に、福音派と行動を共にして、その事実を利用しようとする異端の企てに注意を喚起します。昨年、WEA 総主事がモルモン教会の大会に招かれて講演をしました。その後、すぐに私にも行動を共にしたい旨の聲がかかってきました。JEA、AEA、WEA、どのレベルでも異端諸団体からの誘いには十分な用心が必要です。

目次

巻頭言	1
九州宣教フォーラム 2019 EMNJ 集会	2
JCE 7に向けて	3
NSD サミット	4
世界福音同盟 (WEA) 総会	5
牧師の本棚「聖書を原語 で読んでみて」 信教の自由セミナー	6
流れのほとり	7
JEA アップデート 総務局より	8

九州宣教フォーラム2019報告

「キリストの愛に应えて」～宣教協力～
教職と信徒のチーム力のステップアップ

2019年11月11日(月)～12(火)博多キリスト教会にて、九州宣教フォーラム2019「キリストの愛に应えて」が開催されました。JEA未加盟の教会からの参加も幅広くあり、宣教協力の前進に繋がり、喜ばしい限りでした。地元九州の実行委員の諸先生方の入念な打ち合わせと尊い祈りと準備がなされ、心温かい歓迎に始まり、段取り良くプログラムが進行され、携わってくださった方々に感謝を申し上げます。

●講演Ⅰ：「福音のために共に戦うー宣教協力ー教職と信徒のチーム力のステップアップ」

竿代照夫師(イムマヌエル綜合伝道団)がピリピ1:1-11、27-30よりお語りくださり、大きな励ましを受けた。「教職と信徒」の関係を新約聖書から分析され、「教職・信徒」の区別として、両者は職務の違いであって、上下関係ではなく、宣教に対して信徒と教職の協力が必要であること。『現代社会における教職・信徒の協力』として、教職と信徒の「プロ・アマ」意識を克服できるように。信徒が牧師依存にならず、賜物を自由に発揮し、牧師が信徒を応援、霊的・実践的な訓練を施すこと。教職と信徒の『伝道における協力がなされるため』に「①ビジョンの共有②戦略づくりに共同参画③実際のチーム作り④評価の仕組み」と宣教戦略の具体例も紹介された。



●座談会：入江喜久雄師(福岡めぐみ教会)・井之上薫師(福岡聖書教会)・宇山誉師(鳥栖曾根崎キリスト教会)吉村和

記師(久留米キリスト教会)の4名が講演Ⅰに應える形で、会場を沸かせた。牧師経験年数、世代、開拓ステージなど環境が違いながらも、それぞれの本音を分かち合ってください、「教職と信徒のプロ・アマ意識」の具体例や、牧師に対して「先生」という呼称をなくすなど意見が交わされた。「VISIONの共有」について、牧師の人間的ビジョンではなく、聖書が語るビジョ

ンに取り組むことへの確認がなされ、励ましを受けた。

●グループ・ディカッション：座談会で話されたことをさらに、各グループで話し、それぞれのグループの内容の一部を全体でも分かち合った。ただ聞くだけでなく、それぞれの意見を共有でき、とても有意義な時間となった。

●講演Ⅱ：『キリシタン時代の九州宣教』佐島顕子氏(福岡女学院大学・人文学部教授/インマヌエル福岡教会会員)より、日本史において、九州はキリシタンの存在の影響を受けており、その歴史を九州ならではの視点でとても分かりやすく、笑いも飛び交いつつ楽しく学んだ。またキリシタン時代の信仰者から受けたメッセージを届けてくださった。



●分科会：JCE6・プロジェクトより準備された10分科会に分かれ、祝福の学びの時をもった。

①日本社会と宣教(西岡義行師)②社会と国家(上中 栄師)③持続可能な社会構築(住田 裕師)④災害対応を通して仕える教会(村上正道師)⑤教会開拓・教会増殖(播 義也師)⑥ローカルなことをグローバルな視点で見る(永井敏夫師)⑦ビジネス宣教協力の次世代構想(青木 勝師)⑧痛みを担い合う教会(若井和生師)⑨青年宣教(葛田聡毅師)⑩子ども(鈴木 悟師)

●閉会礼拝：九州宣教フォーラム・実行委員長 入江喜久雄師より、『全世界に出ていく福音宣教者』を「マルコ16:14-20」から、教会堂中心ではなく、至るところに出て行って福音を宣べ伝えるメッセージをいただき、励ましとなった。



九州宣教フォーラム実行委員の先生方と

外国語教会とさらなる繋がりを

2017年から始まった一つのユニークな集まりがある。その集まりはEMNJ(エスニック・ミニストリーズ・ネットワーク・ジャパン)と呼ばれている。以来、ほぼ季節ごとに外国語礼拝のリーダーたち、関心のある人々が都内で集まり、分かち合いと祈りが積み重ねられてきた。そして2018年11月、初めての合同感謝礼拝をもつに至った。第二回目の合同感謝礼拝は、2019年11月4日に東京都世田谷区のJECA宣教教会で開催された。以下、今回の合同礼拝で特筆すべきことを振り返りながら、

永井敏夫 宣教委員(異文化宣教ネットワーク)
単立Jクレイハウス

EMNJの今後の歩みに期待したい。

まず、軽快なテンポの賛美がセレブレーションにふさわしかった。華人、ブラジル人、日本人からなる合同チームが賛美をリードした。会場では様々な国旗が振られ、踊りながら喜んで賛美する姿があり、自由があった。今回のスピーカーは、日本福音同盟の岩上敬人総主事だった。使徒の働き2章から、聖霊の力によりキリストの証人として生きていくことへのチャレンジがなされた。2023年の第7回日本伝道会議に、外国語

まだ？もう？あと3年— JCE7 に向けて

牧野友隆 宣教委員
第7回日本伝道会議準備室
JECA 筑波キリスト教会

序. 「7年毎の開催」と言えば？

「4年毎の開催」と言えばオリンピックでしょう。では「7年毎の開催」と言えば？本稿読者の皆様なら「日本伝道会議（JCE）」とお答えくださるでしょうか。

2016年9月に神戸で開催された第6回日本伝道会議（JCE6）の終わりは、2023年に東海で開催予定のJCE7への始まりでもありました。JCE6閉会礼拝での竿代照夫先生のメッセージはこう締め括られました。「JCE6は今日で終わります。これからJCE7に向かっての7年間、そのゴール（注：「一人の魂の救い」のこと）を目指してともに戦いましょう。サッカーチームのように…みんなで力を合わせましょう。」そうです。各地で各教会で、JCE7へ向かう歩みは今も継続しています。

1. 「まだ」あと3年？「もう」あと3年？

現在はJCE7準備室を中心に開催地との連絡などが進められていますが、本年6月開催予定のJEA総会ではJCE7実行委員会および開催地委員会が立ち上げられる予定です。JCE7まで「まだ」あと3年ではなく、「もう」あと3年です。

高齢化、過疎化、教職者不足など、日本の教会を巡る状況はJCE開催を重ねるごとに厳しさを増しているようにも感じます。一度の会議で解決策が見出せるというものではないでしょう。でも、主にあって希望をもち、宣教協力の輪を広げていくために、共に祈り合うために、諸教会に実りをもたらすJCEを開催できるようにと願います。

2. テーマや内容に関するご意見を

そこで、ぜひ諸教会、諸団体の皆様からJCE7で取り組むべ

きテーマや宣教の課題、集会のもち方のアイディアなどをお寄せいただきたいと願っています。準備に加わっていただきたいと願っています。具体的には次の3つの機会を生かしていただければと思います。

- I. JEA総会（本年6/1-3開催予定）…グループディスカッションなどを通して意見聴取を予定しています（※このプログラムは中止となりました）。
- II. JEA宣教フォーラム（東京、本年9/29-10/1開催予定）…詳細は未定ですが、お茶の水クリスチャンセンターで、JCEの準備につながるプログラムをご用意する見通しです。ぜひご参加ください。
- III. JEA事務所にご連絡…皆さまからの問合せやご要望をしっかりと受け止めて関係部署に連絡していただきます。

3. JCEプロジェクトの活用、プロジェクトへの連携を

JCE6時点では15のプロジェクトがありましたが、現在は「ファミリーミニストリー」（調整中）、「日本宣教170＞200」（終了）、「教会の誠実さへの変革」（終了）を除く12のプロジェクトが研究、書籍出版や集会開催などを継続しています。諸教会や諸団体の取り組みとの協力、連携、各地への広がりが推進していくことを願っています。プロジェクトの概要は以下のサイトをご覧ください。

https://projects.jcenet.org/about_project/

最後に繰り返しますが、JCE7まで「もう」あと3年です。ぜひ準備に加わってください。お祈りください。ご意見をお寄せください。そしてご参加ください。



教会から参加していただきたい、との呼びかけもなされた。伝道会議開催の準備の中で、さらに具体的な外国語教会との協力が、日本各地の教会で進められ、報告されるようになれば素晴らしいと思う。

集会ではさまざまな発表がなされた。日本で主イエスに出会い、人生が変えられたという証しからは、「主は生きておられる！」という熱い心が感じられた。在日華人クリスチャンセンター、在日フィリピン人教会連合（JCPC）など、日本国内で大きな繋がりをもって動いているネットワークからの発表もあった。この二つのネットワークでは、弟子作りプログラムをもち、全国で集会を開催し、日本宣教のために定期的に祈って

いる。私たちが置かれている（遣わされている）「日本」に住む人々への福音宣教を、それぞれの言語グループの教会もまた担っていることを、忘れてはならない。

増加傾向にあるネパール人たちのクリスチャンネットワークが全国に拡がりつつある、という発表にも励まされた。日本ホーリネス教団のある教会は、ポルトガル語とスペイン語の教会に協力し、会堂の使用など互いに協力し合っている事例も紹介された。今回は発表の機会が無かったが、モンゴルやベトナム、中東出身クリスチャンの方々、その方々に繋がっている人たちの姿も会場にあった。

礼拝の後、軽食の交わりのスペースに移った。日本語が分かる人々もいれば、全く分からない方々もいた。けれども、交わりを楽しんでいる笑顔が会場に満ちていた。私は、栃木県から来ていたブラジル人宣教師、在日ブラジル人の子供たちに日本の文化や風習、習慣などを教えている若者、ロンドンから来ていた日本語教会牧師と交わりの時をもった。さまざまな背景とアイデンティティをもつ人々との出会いや交わりには、いつも良い刺激と気づきがある。ある統計によると、日本にいるクリスチャン5人の内2人は外国の方だ。皆さんの教会は外国の方にどう届いているだろうか。

「NSD サミット」報告

薦田聡毅 青年委員長
イムマヌエル綜合伝道団・堺キリスト教会



1月20日(月)に開催された「NSD サミット」についてご報告いたします。

このイベントは、2018年秋に市川の総合クリエイションセンター他で開催された第2回日本青年伝道会議(NSD II)を軸にしています。17年5月に教会・教団青年担当者サミット、18年1月に青年宣教団体サミット、そして18年11月のNSD IIの一日目に両者合同でNSD サミットが開催されましたが、今回はその続きとして、久しぶりに開催されたものです。

青年宣教団体とは、中学生聖書クラブ協力会(CSK)、高校生聖書伝道協会(hi-b.a.)、キリスト者学生会(KGK)、日本キャンパス・クルセード・フォー・クライスト(CCC)等の中・高・大学生伝道に特化した宣教団体や、神学校、プレス、メディア、アート、キャンプ、スポーツ関係の団体、また4/14の窓運動など教会学校の分野を含めた各種団体のことです。

当日は会場であるOCCホールに、延べ100名を超す参加者があり、参加人数も年々少しずつですが上昇傾向が見られ、NSD サミットの趣旨や働きが浸透し始めている様子が見られ、感謝です。



午前は礼拝と全体集会がもたれました。hi-b.a. スタッフの浜岡師の指導による賛美の後、ルカ5章1～11節より青年委員長のメッセージ。「徒労にも思えた収穫ゼロの一晩の後にも、魚を船一杯に満たすことがお出来になる主の御声の時のために、網を洗い繕って備えよう。各教会と宣教団体の良き協力こそが縦と横の糸になって、強き網を形成するのでは

ないか」とみことばの励ましを頂きました。

NSD サミットは、その場所だけで完結するイベント主体の集会ではなく、それをきっかけとして協力関係が築かれ、新しいチャレンジが広がっていくための集会です。たとえば教会の青年会活性化のために、専門家の主事を教会に招いて助けてもらう、といった具体的な実践の紹介がされ、また教会との連携や協力のために「できる事・準備している事・したい事」が、KGKの吉澤主事と、hi-b.a.の鈴木主事から紹介されました。



昼食タイムには、集まった方々が互いに知り合い、語り合い、交わるためのひと時を有意義に過ごしました。ただ懐かしい再会を喜ぶだけではなく、新しく知り合う機会、以前から興味があった団体との関係を築く機会として用いられました。

午後からは分科会が7クラス用意されました。クラスの内容と講師は次のとおりです。①クリスチャンキャンプの作り方(松原湖バイブルキャンプ/鈴木聖仕師)②青年への話し方、届き方(KGK 総主事/大嶋重徳師)③教会の中高校の作り方(CS 成長センター/松井師)④若者の現状(hi-b.a. 総主事/川口師)⑤SNSを使ったアプローチ(hi-b.a. 主事/水梨師)⑥東京五輪の年、スポーツミニストリー(日本国際スポーツパートナーシップ/岡澤兄)⑦性・恋愛・結婚のテーマをどう伝えるか(KGK 主事/城間師・会田師)。

同じ分科会を2回実施し、参加者は希望の2クラスに参加できるようにしました。各クラスとも、興味をもって参加した方々だったので、質疑応答や意見交換も活発にされ、関心の近い方々が知り合う機会となり、とても有意義な時間となりました。

各講師とも、喜んで重荷を担って手弁当で来てくださり、それだけ熱意を感じるプログラムとなりました。閉会時間に全員が再集合し、賛美を捧げ、祈りをともにして、希望を抱いてそれぞれの働き場に散会しました。お祈りを感謝いたします。

世界福音同盟・総会に参加しました

マッツ知子 JEMA
ワールド・ゴスペル・ミッション



WEA 総会・オープニングセレモニー

WEA (World Evangelical Alliance 世界福音同盟) 総会が 2019 年 11 月 7～12 日、インドネシア、ジャカルタ郊外のボゴールでもたれました。世界の福音派教会のクリスチャンとリーダーが 92 カ国から集まり、教会の実態を見ながら分かち合いました。

私は、アメリカの宣教団体に所属しながら、日本のインターナショナル教会で牧会をしています。その関係もあり、福音派教会の動きが世界規模ではどのように動いているのかが気になっていました。「福音派」という響きに違和感をもつ人々が出て来ている近年、教会はどのようにこの時代を乗り越えるの

だろうか、という問いを抱きながらインドネシアに向かいました。

WEA 総会のテーマは、Your Kingdom Come 「御国が来ますように」でした。私たちの前を歩んだキリスト者のこの祈りが、今は、私たちの祈りとして与えら



日本からの参加者

れています。言葉と文化、また移動手段の壁があった時代とは異なり、今は、グーグル翻訳などを使いながら、世界中から集まった出席者が挨拶を交わし、名刺、メール、携帯、ワッツアップ、フェイスブック、ウェブ情報などの情報交換をすることができます。以前は、宣教師など海外生活経験者の発信が外国の教会についての主な情報源でしたが、今は誰でもスマートフォン一つで海外の教会と繋がる事が出来ます。このような時代に「御国が来ますように」と祈ることは、何を意味しているのだろうかと考えさせられました。

総会では、次世代の弟子づくりについて語られていましたが、日本の教会も高齢化社会の中にあって、大きなジェネレーション・ギャップを感じているように思います。総会では、世界の福音派教会の現状を分析しつつ、改善のノウハウを提案されていました。その中で、もっとも印象的だったことを二つを挙げ

て、この報告を終わらせていただきます。

1. パワーバランスを考えること

高いところから低いところに水が流れるように、「声をもたない者の層」は、何の工夫もなければ、下の弱者に行きます。白人優遇社会、また男性中心社会もそうですし、上のジェネレーションの声が強く反映されるような組織構成も、この「声をもたない者の層」がパワー構造の中では一番下に来るわけです。WEA は、愛をもってアンバランスな状況の構造改革に取り組んでいます。

2. 40 を過ぎたら次世代にリーダーシップをバトンタッチ

40 代はリーダーシップに関わり始める年代だと思っていた私には革命的な観点でした。リーダーの育成は、生まれながらもつ素質を見つけ出すというよりは、見本となる人を見習う人を育てていくものです。時が来たら未熟と思える中にあってもバトンを渡し、バトンを渡した者は、率先して縁の下の力持ちとなり、愛と希望をもって次のリーダーの失敗や欠点を拭って行きます。主の洗足のように、上の者が率先して手ぬぐいを腰に巻くことが次世代リーダーの育成に繋がるのです。

総会に出席し、着々と進む主の御国の建設に感動を覚えながら、一つ一つの奉仕に感謝の心をもって主を賛美しました。次の総会は 6 年後とされています。



WEA 総会の閉会礼拝・選挙で選ばれた新国際評議員のための祈りの時

11 年ぶりに開催された WEA 総会に、日本 (JEA) から国際渉外室長・植木英次 (WEA 国際評議員)、JEMA 宣教師・マッツ知子、総主事・岩上敬人の 3 名が参加しました。世界またアジアの福音派諸教会や諸宣教団体のリーダーの方々とは繋がる有意義な時となりました。JEA が神の御国の建設のために、アジア福音同盟 (AEA)、世界福音同盟 (WEA) と連帯しながら進んで行くことをしっかりと確認することができました。お祈りをもって送り出してくださった皆さまに心から感謝申し上げます。(総主事・岩上敬人)

牧師の本棚

『聖書を原語で読んでみて はじめてわかること』

赤坂泉 神学委員
聖書神学舎校長

(村岡崇光著、いのちのことば社、2019年)

これほど明快に内容を示す書名も稀でしょう。世界で貢献してこられた第一級の学者の手による書にして、高校生でも魅了されて一気に読み進めそうな書というのも希少です。欧米の大学などで聖書言語の教鞭を執り、研究を続け、ヘブル語の文法書、アラム語の入門書、70人訳のギリシア語の辞書や文法書等々を出版なさりという日本人学者に並び立つ者はいません。その学者が、原語で読めばこそ見えてくる聖書の情景を豊かに紹介してくださるのです。半世紀も聖書言語を教授して来られてなお新しい気づきに心を躍らせておられる先生の姿を垣間見るようでもあります。いのちのことば社の企画と村岡先生の日本の教会への愛を主に感謝します。

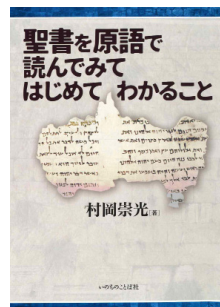
小著ゆえに、紹介される聖書箇所は限られています。しかし、聖書の奥行きを知らされて、読者はもっともっとみことばに近づきたくてしょう。そして、なるほど原語で読むことの意義と重要性に同意なさるでしょう。神が啓示の言語として選んだことばの緻密さや美しさに驚嘆させられるに違いありません。ちなみに、若い世代の読者は日本語の豊かな語彙にも圧倒されて、辞書を引きたくなるかも知れません。それも含めてことばの豊かさに心を躍らせてください。

原語で読みたくなる方々も起こされるでしょう。独習書や講座もあり、ある程度までその願いを達成できそうです。ただし、

聖書を読むことは、文字を読み解くことではなく、神のことばを聴くことです。聖書全体の文脈をわきまえること、歴史的な背景や文化的な背景の情報も必要です。聖霊の助けが不可欠です。言語の学びとともに、聖書と神学の学びに勤しんでください。

原語の訓練を受けた説教者にとっても励ましましょう。聖書を原語から講解する務めが、重労働にして特権であることを思い出させられて、みことばの宣教の務めにいよいよ励みたいと思います。

村岡先生には、2015年に聖書神学舎夏期研修講座の講師として帰国奉仕していただくことができました。聖書の講義に加えて、日本の戦争責任を巡って「敗戦70年にあたって日本人キリスト教徒として」と題する講演をしてくださり、その後も深夜まで語り合ってくださった情熱を思い出します。現在も毎年5週間は「日本帝国主義の傷痕のまだ癒えていないアジア諸国において無給で専門科目を教授」しておられます。主がこの器を祝し用いてくださることを祈っております。



なぜ日本でキリスト教は広まらないのか？

児玉智継 社会委員
JECA・布佐キリスト教会



2019年12月13日(金)、東京・駒込の中央聖書神学校(日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団)を会場に、第31回JEA信教の

自由セミナーが開催されました。講師は森島豊氏(青山学院大学)で、テーマは「なぜ日本でキリスト教は広まらないのか～不思議な日本社会の仕組みについて、Dr. 森島と神学生たちのぶっこみトーク～」でした。今回のセミナーでは、サブタイトルにもあるように、森島氏の講演の後で、4つの神学校(中央聖書神学校・聖契神学校・東京基督教大学・東京聖書学院)から4人の神学生が応答してくださいました。それぞれの神学校の特徴がよく出ていて、大変興味深い指摘をしてくださいました。ご多忙の中で、ご準備くださった森島氏と神学生の皆様

に心から感謝いたします。

「なぜ日本でキリスト教は広まらないのか」。森島氏によれば、「日本の『信教の自由』をめぐる宗教政策が大きく影響している」のです。先ず森島氏は、「人権の理念(あるいは「抵抗権の自覚」)が法制化していく歴史」を紐解き、その背後には「人間の自由な存在を支えるキリスト教信仰が基盤にあり、具体的には聖書の福音を伝道した説教の影響」があった、ということを明らかにされました。そして日本の為政者たちは、「天皇神権」による集権的封建国家を目指す中で、理屈ではなく、いわば鋭い政



治的嗅覚によって、そのキリスト教的な影響を敏感に見抜いていた、と言います。だからこそ、政府は「日本型政教分離」制度などの社会的仕組みを作ることによって、抵

流れのほとり

No.26

野寺恵美 女性委員長
同盟教団・赤羽聖書教会

女性たちよ、いつものように！

新型コロナウイルスの流行で世はざわめいている。店頭からマスクが消え、トイレットペーパーが消え、納豆まで棚から消えた。ニュースで報道されるたび、つい買いに行きたくなる衝動を「本当に必要な人がいるのだから」と言い聞かせ、「また感染者が出ました」との報道に、まるで死が自分に迫っているかのように恐怖を募らせる。

それどころか、今や私たちが大事にする礼拝まで脅かされている。感染防止のためと政府が全国の学校を休校にする措置を発表するや、主日礼拝をどうするか多くの教会で話し合われた。私が属する教会でも長老執事会で話し合った。高齢者のため集まるのを控えよう、家族が感染を心配するから証しのため自粛しよう、礼拝は命だからこれだけは守ろう、礼拝以外（食事の交わりや諸集会）は控えよう、それでも感染を心配する人にはどうするか？ 祈祷会は？ 教会学校は？ 政府が自粛しろと言うから従うのか？ 教会の自治は？ 等々……。結果的に主が教会の信仰を試される良き時となったようだ。

教会が礼拝を取りやめる様子を、「国がこう言うから」「世間に悪く見られないよう」「証しにならない」、戦時下そう言い訳しながら自ら偶像礼拝に陥った日本の教会の歩みを垣間見たような恐ろしさを感じるのは私だけか。

感染を防ぐことは大切だ。しかし、子供たちの教育を受ける権利が奪われ、集まる自由、礼拝する権利が奪われていることを忘れてはならない。

地震や台風という自然災害、天皇制という国家体制の問題を通して主に試されてきたが、今やウイルスを通して私たち教会は試されている。

世の中は非常事態であっても、主を信じる私たちは、「いつものように」（ダニエル 6：10）生きる者でありたい。

「かたりば」について

薦田由理 女性委員 / イムヌエル綜合伝道団



女性委員会では昨年十月から「かたりば」をスタートしました。ビジョンをもって活動されている女性を迎え、その働きを始めた経緯や活動などを

紹介して頂いています。初回は「心のケアミニストリー タリタ・クム」の岩上真歩子先生を、二回目は「小さないのちを守る会」の辻岡敏子先生をゲストにお迎えしました。この「かたりば」は、講演ではなく、ゲストと来会された方々が双方向で語り合える場所です。与えられたビジョンに真実に取り組む姿勢や働きの必要に目が開かれます。

女性のライフスタイルも変化し、「心のオアシスリトリート」の参加が難しい方々も少なくありません。「かたりば」の延長上に、一日か半日の講演会をもつなどして、より多くの方に「宣教に生きる女性」に関心と理解をもっていただけるのでは、と思います。

今後の予定としては、4月に世界福音同盟総会に出席されたマッツ知子宣教師を、7月に特別養子縁組に取り組む「ベアホープ」のロング朋子姉をお迎えする予定です。男女を問わずどなたでも参加できる開かれた集会です。詳細は JEA ホームページ（女性委員会）に掲載しています。多くの方の参加をお待ちしています。（※4月の「かたりば」は延期となりました）

JEA 社会委員会

抗権に至る思想的萌芽を摘み取っていったのだ、と森島氏は指摘します。森島氏によれば、この政治政策は、まさにキリスト教対策であり、今に至るまで続く社会の仕組みなのです。では、キリスト教会はどうしたらよいのでしょうか。この問いに対して、森島氏は、今日のキリスト教会の課題は、「イエス・キリストは、今、ここに生きておられる」ということを御言葉と聖餐によって語ることであり、「教会形成から社会形成」を目指すべきである、と提言されました。

また、このセミナーに合わせて、小冊子『聖書信仰と天皇の代替わり「天皇代替わり Q & A」の議論から』が JEA 社会委員会から発行されました（定価 300 円）。2018 年に行われた同セミナーの報告です（2018 年のセミナーは、社会委員会

の呼びかけに応答下さり神学委員会、女性委員会、青年委員会の協力を得て四委員会の共催となりました）。また特別寄稿として、森島氏の「憲法改正と人権の危機」も収録されています。各団体・各教会などでの学びなどにご活用いただければ幸いです。



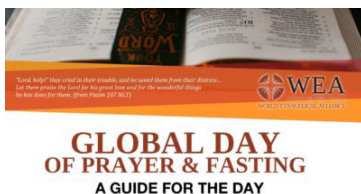
「心をひとつにして、福音の信仰のために」
～新型コロナウイルス時代を生きる教会～

2020年5月 日本福音同盟 (JEA) 神学委員会

目次

1. 「教、教会を信ず」 藤原浩章
2. 「いっしょに」集まる事い
～愛と善行を積み重ねようことこそ～ 赤坂 泉
3. 聖書 (特に旧約聖書) における律法の柔軟な適用 千代崎 達彦
4. インターネットを用いて「礼拝する」とは 山田 泉
5. 遠隔礼拝における聖餐 青木 隆紀
6. 感染症とキリスト教会の歴史から 吉川 直美
7. AI 技術の成熟と教会を考えると30年後を見据えて 船越 一郎
8. コロナ禍におけるみことばの贈りし 宮崎 聖雄

神学委員会が発行した
「心をひとつにして、福音の信仰のために」
～新型コロナウイルス時代を生きる教会～



新型コロナウイルス感染の中にある
教会・日本・世界のために祈りましょう。

1. 諸教会・諸団体の歩みに、主のみ守りと導きと祝福がありますように
2. この事態が一日も早く終息し、痛んでいる世界に癒しが訪れますように
3. 神の国の、聖霊による義と平和と喜び (ローマ 14:17) に沿った方向に、世界が対応策をとるよう
4. 為政者が正しい決断と実践に導かれますように。社会の中で弱い立場にある人々に支援が届きますように
5. 人々の身体と心と魂が守られますように。罹患した方々が癒されますように
6. 感染対応の現場で労しておられる方々、医療、福祉、行政、教育等の働き手に主の守りがありますように
7. JEA 関連の信徒、教師、関係するすべての人々に主の御心だけがなり、それぞれの使命を果たし、「聖霊による一致」(エペソ 4:3) を熱心に保って、世界に主の祝福を広げることができまうように

新型コロナウイルス感染に対する JEA の取り組み

新型コロナウイルス感染拡大を受けて、3月以降、JEA 関連のさまざまな会議は中止、延期を余儀なくされ、4月からは ZOOM 会議のみの開催となっております。春から夏にかけての JEA 各専門委員会主催のイベントもすべて中止、あるいはオンラインによる開催となりました。教会に変化が余儀なくされているように JEA 全体も様々な変化の必要に迫られています。

4月20日に JEA 理事会が行われ、新型コロナ対応の取り組みが決められました。まず取り組んだのは、新型コロナウイルス感染の中で苦しんでいる方々、前線に立っている医療従事者をはじめ、教会全体のために祈りを呼びかけることでした。5月26日、5月3日の2回の主日を祈祷日と定め、日本全国の教会で日本のため、世界のためにとりなしの祈りをささげました。次に、感染拡大の中で礼拝の自粛を余儀なくされたり、伝道活動に大きな制限を受けている JEA 加盟の諸教会に向けて、何らかの神学的応答を出すことでした。これについては、5月末に神学委員会が新型コロナによる教会の諸課題についてペーパーにまとめ、6月に「心をひとつにし、福音の信仰のために～新型コロナウイルス時代を生きる教会」というタイトルで神学エッセーを加盟各団体にお届けいたしました。また援助協力委員会では、新型コロナ感染の中で様々な経済的戦いの中にある教会や団体のために支援の準備を進めています。詳しい情報は JEA ホームページ (jeanet.org) で紹介しております。ぜひご覧ください。

アジア福音同盟(AEA)では、5月に予定していた AEA 総会が延期となりました。現在、AEA ではアジア諸国が連携して新型コロナウイルスの課題に取り組もうとしています。毎月、オンラインにて AEA 総主事会議を開催し、情報交換を行っています。世界福音同盟 (WEA) では COVID-19 チームを立ち上げて、世界各国の教会に奉仕しています。JEA はアジア (AEA)、世界 (WEA) の福音派諸教会と連携しながら歩みを進めております。

第 35 回 JEA 総会は文書による開催となりました

6月1～3日、つま恋リゾート彩の郷にて第35回総会の開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止することとなりました。一年に一度の総会は JEA 規約で規定されていますので、文書による代替開催とすることを理事会で決定しました。理事選挙、理事長選挙は郵送による投票が行われます。特別な形となった総会、また今年度の JEA の働きを覚えてお祈りください。

JEA ニュース発行遅延のお詫び

2020年4月に JEA ニュース 55号を発行すべく準備を進めてきました。ところが、新型コロナウイルス感染が急速に拡大し、緊急事態宣言が発令される中、4～5月の二カ月にわたって JEA 事務所も閉まっていたことから、JEA ニュースの発行が大幅に遅れてしまいました。本来、4月に皆さまの手元に届くはずだったニュースが7月初旬までずれ込んでしまいました。原稿を執筆してくださった先生方、また JEA 諸団体の皆さまにお詫び申し上げます。(総主事・岩上敬人)

JEA 総務局から

- ◆ JEA 総務局では新型コロナ感染拡大により、4月、5月は事務所を閉めて、在宅ワークにて対応しました。6月に入ってから、週に4日、スタッフがシフトを組みながら事務所機能を再開しております。加盟団体の皆さまには、ご迷惑をおかけすることもあるかと思ひます。どうぞお許しください。
- ◆ 総務局の在宅ワーク化に伴い、さまざまな業務でさらにオンライン化を進めております。JEA からの連絡もメールが主となりますので、ご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。
- ◆ JEA への問い合わせ、ご要望があれば、総主事までメールにて遠慮なくご連絡ください (admin@jeanet.org)。



日本福音同盟

心をひとつにして福音の信仰のために力を合わせて戦い (ピリピ 1:27)

JEA ニュース 55号 発行・日本福音同盟 (JEA)
発行者：廣瀬薫 編集者：岩上敬人
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCC 内
TEL : 03-3295-1765 FAX : 03-3295-1933
email : admin@jeanet.org
郵便振替 : 00150-8-68442 (口座名義 : JEA)